

副審との連携について

「審判員講習や審判法に関する説明での間違っただ指導や誤解釈の訂正について」

指導委員会

(2022/7/10 指導者研修会審判部会)

コーチ及び都道府県協会より、主審の副審との連携について確認や是正を求める事例があり、審判部会において再確認と認識の統一を図った。

1. 主な事例

【誤1】「副審は大きなジェスチャーをするな。」

理由：選手が副審のジェスチャーによってプレーを止める場合があり、主審と判定が違った場合、トラブルになるから

【誤2】「アイコンタクトを取った時だけジェスチャーをせよ。」

理由：すべて主審（自分）の判定を優先する。必要になった時だけ聞くから。

【誤3】「副審を見ない、確認しない。」

理由：すべて主審（自分）が判定する。

【誤4】「一度下した判定は、覆さないこと。」

理由：副審が違うと言っても判定するのは自分だから

2. 確認事項（必携書審判法より抜粋）

【主審】

- ・実際に行われたプレーの事実に関して最終的に判定する。(P163.2-②-ア)

【副審】

- ・主審を補佐しプレーの判定を行う (P163.2-③-ア)
- ・副審が立った側のサイドラインと、ネットプレーおよびサービス時のレシーブサイドのファウルに関する判定を行う。(P163.2-③-イ)
- ・副審側のサイドラインの判定は、ジェスチャーにて主審にはっきりと示す。ただし、主審がコールするまでは、インプレー中である。(P164.3-②-イ)
- ・主審より判定に意見を求められたら、素早くアウトインの判定をジェスチャーにて示す。副審も、常に全てのプレーの判定ができるようにしておかなければならない。(P164.3-②-ウ)

3. 審判部会での検討結果

上記【誤1～誤4】のようなことが起こらないように、再度、必携書に記載の主審と副審の役割を理解することを要望する。

- 副審側のサイドラインの判定は、ジェスチャーにて主審にはっきり示す。
その副審の判定に対して、原則として主審は認める。判定を尊重し、強引に違うと言わない。
- その他のライン際についても、主審が見えなかったりする場面があるので、主審から副審にアイコンタクトされたら直ぐに答えられるようにしておくこと。

以上について再度認識を徹底し、指導的立場にある方は間違った指導や解釈をしないよう各審判員に再確認することを要望する。